平成１８年度第１回総合計画策定審議会【第１専門部会】

日　時　平成１８年１０月２４日（火）午後２時３０～
場　所　石狩市役所　４階　４０２会議室
出席者　須田委員、阿部委員、横山委員、山田委員、三上委員、羽田委員、立浪委員、松井委員、松尾委員、林委員
欠席者　なし
傍聴者　０人
議　題

１．部会長及び副部会長の選出について

松尾委員の推薦により、部会長を松井委員、副部会長を林委員に決定。

２．財政再建計画説明（事務事業見直し含む）

●財政再建計画はこの先どういう手順で確定されていくのか。

→　現在は市からの検討原案として提示しており、パブリックコメントを１１月１０日まで実施している。ここに寄せられた意見を踏まえ、最終的には、各年度の予算編成の中で確定されていく。

●総合計画（戦略計画）に記載されている「あつたふるさとの森整備事業」で木を植えていくことなどは、事業に賛同する人やゆかりのある人から財源を確保するなどを考えられないか。また、原野商法などで分割された土地が厚田にはあるが、保有税のようなものを自治体でつくる権限はないのか。

→　あつたふるさとの森については、財源確保など検討している段階である。

→　新税をつくることは可能だが、基本税率で課税しているものを超過税率にする検討をまずしなければ、新税は難しいと考える。

●財政再建団体については回避しなければならないことから、まずは市役所の財布の管理が重要になってくると思うが、それによって地域の魅力が低下し、人口の流出や地価の下落などにより収入が下がっていくような影響がでないようにしていただきたい。

３．戦略計画説明及び議事

○事務局：別紙資料説明

【テーマ１「安全・安心・快適なまち」の議事】

（１）道路網の整備について

●成果指標の「歩道整備率（計画路線）」を現状の６９％から目標を９４％にするとなっているが、財政再建計画とリンクしているのか。

→　基本的には計画路線について継続事業を進め、それを実施することによって目標数値に近づけていこうというものである。

●「現状と課題」の記述に、バリアフリー対応の道路づくりとあるが、「安全・安心・快適なまち」で整理したのはどういう観点か。

→　道路整備事業をやる中で、バリアフリーを視点におきながら改良していこうというものである。費用はかかるが、最低限のものは実施していかなければならいと考えている。

（１）道路網の整備については了承。

（２）除排雪対策の充実について

●国・道・市が連携して除排雪を実施するという視点はもてないか。

→　交差点などの置き雪については、連携を図っている。

●成果指標で「除排雪が以前よりも良くなったと感じる市民の割合」は、雪の降り方によって左右されるので、成果としては難しいのではないか。

→　行政としてめざすべきところはどこなのかと考えたときに、道路をきれいに除雪した場合、除雪のレベルとしては高いが、その結果、置き雪が増加して、市民が除雪に対して不満をもつことは好ましくないため、市のめざすところは除雪のレベルがいいか悪いかではなく、除雪がいいかどうかという感覚を持ってもらうことが大事ではないかと考えている。この総合計画ではそうした感覚的な指標が多くあり、そういうところをあえてめざしたほうがいいのではないかと考えている。

●指標については、すぐに上がる下がるではないと思う。

→　こういった数値で表すのは初めての試みで、委員が言われている点については、5年後見直す時に参考にしたい。

（２）除排雪対策の充実について了承。

（３）公共交通環境の充実

●軌道系交通は昔から計画されてきたものと思うが、最近、改良された路面電車などはモノレールを導入するより安くなるのではないか。

→　モノレールと大きく違うところは、平面を走る。今の道路活用するのか新たな用地を購入するのかでコストが大きく変わる。また、路面を走ることは、車が中心の中で路面数が減ることで車が走りづらくなる。モノレール構想は、路面の上を走ることにより道路交通渋滞の緩和も図りながら大量運行することを目的としている。

●バス利用促進について、石狩市がどの程度負担すると料金が安くなるのか。
　→　調査して次回以降の部会で説明する。
●過疎地の課題は路線充実よりも路線維持と考えるが。
　→　文章表現について再度検討する。
●バス路線数を増やすという指標は現実的なものとなるのか。
　→　市民も利用しないと便数が減るなど不便になるという認識をもっていただいた中で、バスの利用や企業誘致などを進め増加させていきたいと考えている。
●施策の内容「②軌道系交通機関導入の検討」について、「…関係機関と連携しながら導入に向けて必要となる検討を行います。」とあるが、「…関係機関と連携しながら導入をめざして引き続き検討を行います。」の方がいいのではないか。
　→　文章表現について再度検討する。

（4）情報通信網の整備
●市の地域情報化計画との整合はとれているのか。
　→　地域情報化計画でも情報通信基盤の整備は記述されている。

（4）情報通信網の整備について了承。

（5）上・下水道の整備

（5）上・下水道の整備について了承。

（6）住宅・住環境の整備
●成果指標の公営住宅整備戸数に市営住宅だけではなく道営住宅を含めたほうがいいのではないか。
　→　道営住宅も含めた戸数に訂正する。
●施策の内容②に需給情報のマッチングとあるが、具体的にはどういうことを考えているのか。
　→　花川北地区など空家の増加や高齢化により貸家としたい高齢者などのデータを集約し、居住したい方への情報提供など、市が斡旋するということではないが、きっかけづくりをしていきたいと考えている。

（6）住宅・住環境の整備について了承

（7）消防・防災体制の充実
●成果指標の災害時要援護者支援制度の登録数の目標 1,000 人の根拠は。
　→　災害時には高齢者など自力で避難できない人を見過ごすことはできず、迅速に避難させるためにも、これに登録してもらうこととしている。
●集会所など避難所の耐震化については、問題がないのか。

→　集会所については、大半が耐震化されている。

（７）消防・防災体制の充実について了承

平成１８年１２月１４日議事録確定

石狩市総合計画策定審議会第１専門部会
部会長　　松　井　義　孝